

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 ウエルネス

今年度は、前年度に引き続き、コロナ感染対策を念頭に置きながらの事業執行でした。施設内においては、介護施設の「クラスターの発生予防」対応等のガイドラインに沿った予防を実施し、安全対応体制の構築をより強化した結果。単発での職員の罹患があったほかは、利用者への感染もなく過ごすことができました。

当法人の職員には、使命感・責任感を自覚し、日常活動はもとより、家庭生活においても自律ある生活を送っていただいたことを感謝します。

今年度は、24年度の介護報酬改定への準備期間でした。

次期改定要綱で示された 1, 感染症や災害への対応力強化。2, 地域包括ケアシステムの推進。3, 自立支援・重度化防止の取り組みの推進。4, 介護人材の確保・介護現場の革新。5, 制度の安定性・持続可能性の確保。を推進する体制づくりと、実際の運営を強化するための改善を継続しました。

1、地域への貢献

今年度の地域活動も、コロナ感染の状況を見ながら、地域コミュニティや町内会等との連携を図りながら実施しました。

「うんどう教室」 今年度は実施できず、5年度に再開したいと思います。
「オレンジカフェ」 感染防止に留意しながら毎月実施し、参加延べ人数は100名でした。

「葛巻地区認知症フェア」 11月に実施。その他地域にも3か所出張講座実施。

「通所運営推進会議」 感染状況により実施できませんでした。

「特別養護老人ホーム運営推進会議」 感染状況により実施できませんでした。

2、健全経営と職員の処遇改善

今年度は、「介護職員処遇改善事業」「介護職員等特定処遇改善事業」「ベースアップ等支援金事業」を実施しました。

コロナ感染不明者の早期発見の補助具として「抗原検査キット」を常備し、定期的に職員全員検査を実施しました。今後もしばらくは継続します。

健康診断は、法人全職員（短時間パートも含め）全額法人負担で7・8月に実施しました。夜勤職員は、春、冬の2回行いました。留意を指摘された職員には、受診・治療継続を勧めます。

令和4年4月から企業主導型保育園「みつけの保育園」と提携し、福利厚生の一環として、該当職員が安心して勤務できる環境を整えました。

コロナ感染休業補償保険（特養1日20万円×14日間）。（通所1日11万円）に加入

して、不測の休業に備えました。今のところ使わずに済んでいます

① 特養：

●「喀痰吸引実習」は、コロナのため病院実習が長期間延期となっていましたが、5年に入り実施でき、研修修了者が介護員で8名となりました。より施設の看取り体制を強化できました。

●社内研修は、インターネットによる研修システムに加入し、年間研修計画のもとに月1回介護職員会議にて、施設内研修を継続実施しました。

これらの研修や介護会議を活用し、介護職員全員が各項目の介護の統一性を実施し、そのうえで個別介護が提供できる体制を強化していきます。

●外国人介護人材の活用

ベトナム人技能実習生が6月29日に1名入職しました。勤務態度、学習態度も素晴らしく、1月の検定試験も知識・技能とも優秀な成績で合格しました。指導員たちも、丁寧に指導し信頼関係を築いています。

●短期・長期借入金の組み立てと修繕積立金

融資枠に余裕を持ち、万が一施設内に感染者が発生して予期せぬ事態にも対応できる体制を作っています。また年度末には、修繕積立金を計上します。

●入院者を出さないために各職種のやるべきことを自覚し、実施していくことにより、稼働率100%を目指しました。達成した月は3回ありました。

② 通所介護：各自の業務内容を見直し、より「そいがあ亭の魅力」を追求しました。コロナ禍で停滞気味の利用者様の精神的、身体的な活性化増進を目指しましたが、年度内はほぼ感染に予防しなければいけない状況でした。

●自宅での日常生活との連携を強化した介護計画のもとに、一体的なりハビリテーションと科学的介護に取り組みました。

●情報提供を少しでも増やすため、「そいがあ亭だより」を毎月発行しました。

●ご利用者各自の情報交換のため、介護支援専門員に参加状況を綿密に行いました。

●コロナ禍での脚力の低下を感じ、天気を見ながら市内の観光施設への外出支援を行いました。

●コロナの感染や濃厚接触者の待機、長期間利用されている方の状態変化により、短期入所の利用が増えて、稼働率が低下しました。

③ 地域包括支援センター：コロナ禍における新しい生活様式の中で、地域高齢者の精神的、身体的機能低下を支援しました。感染状況を見ながら、不活性化予防策を啓蒙し、実施可能なイベントの開催等検討して実施しました。

●まちなか西コミュニティと、「チームオレンジ」を立ち上げ、地域の認知症の予防啓もう活動を開始しました。来年度はより活動を広げていきます。

- 今期はコロナ感染対策には十分留意し、計画の実施に努めました。
- 今年度は、電気料（年間で約倍額）をはじめとして、経費全般における各費用が増大となり、予算はしていたものの、これ以上の物価高騰が続くと、より経営が圧迫されます。
- 見附市出身の今井美穂さんに、グループ全体の「PR コーディネーター」に着任していただきました。当グループの広報、求人等に寄与していただく他、「福祉の仕事」の啓もうにもご尽力をしていただく予定です。
- 4年10月から、「酒気帯び運転防止チェック」を実施しました。違反者はいません。
- 不慮の事態にも対応できる組織の体力を強化するため、当法人の福祉活動を確実に実行して地域に貢献するとともに、売上げの最大化、経費の最小化を目指し、資金運営を強化し、修繕費積立を実行し、職員の処遇改善を実施し、計画通りの実行を目指しました。
- 予想外の諸物価高騰がありましたが、今年度の計画に沿った活動実施、決算は達成できたと思います。